

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

3月

No.141



特集 P2・3

第3次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン

平成28年度～31年度

「ほっとかない」を合言葉に
出来ることから実践

ひ孫と
いっしょ

山崎町 野々上 シリーズ140

やなぎ た すすむ
柳田 進さん(89歳)

あ さ ひ
○彩沙陽ちゃん(1歳)

やなぎ た けいすけ あや な
柳田 佳祐さん・文那さん

■長女

「ほっとかない」を合言葉に 出来ることから実践

第3次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン
平成28年度～31年度



大雪に見舞われた波賀町北部の高齢者を支援しようと、市民と本会職員の有志で雪かきボランティアを実施（2/18 写真は戸倉地区のひとり暮らし高齢者宅）

支え合いふくしプラン 4か年計画のスタート

平成28年度は、「宍粟市社協第3次地域福祉推進計画」とともに歩んだ一年でした。

昨年6月に計画を策定し（計画書は8月完成）、9月の広報発行に合わせ、ダイジェスト版を全世帯に配布しました。

第3次地域福祉推進計画では、「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」「ほっとけない」「をほっとかない宍粟に」を、4年間でめざす地域福祉目標として定めました。

また、地域住民をはじめ、自治

「宍粟市社協第3次地域福祉推進計画（愛称：支え合いふくしプラン）」の平成28年度の取り組みがこのほど終了します。

今月号では、28年度の進捗状況を報告するとともに、29年度に重点的に進めていく取り組みについて説明します。

会福祉連絡会や地域で活動するさまざまな団体等と連携・協働しながら「支え合い」を進める計画書の愛称として、「支え合いふくしプラン」と名付け、計画がスタートしました。

10月には、「第6回宍粟市地域福祉のつどい」を開催し、空き校舎を活用した集落活性化の拠点「たかのす東小学校（旧千種東小学校）」を会場に、「支え合いふくしプラン」について説明を行い、これからの地域づくりについて参加者と共に考えました。



住民主体の地域づくりに取り組んでいる3つの団体が実践を報告（10/1 第6回宍粟市地域福祉のつどい）

読者の
感想より

雪の多い2月ですね。しかし空気が少しずつ春のおいもして来ました。今月号も内容が多くのもっており、社協の経営改善に向けた取り組みがよくわかりました（山崎町 女性）

こんにちは！
社協です!! 2



「新しい総合事業」の実施に向けて、生活支援コーディネーターが奮闘(1/24 一宮支部老連 新しい総合事業研修会)

地域包括ケアシステム を構築していくために

地域福祉目標の実現に向け、4つの推進目標（地域づくり・つながりづくり・仕組みづくり・社協の基盤強化）を掲げ取り組んできました。ここで、28年度の主な取り組みについて報告します。

介護保険制度の改正により、29年4月に「新しい総合事業」へ移行するにあたり、穴栗市からの委託を受け、新たな職種として**生活支援コーディネーター**を2名（山崎・千種エリア、一宮・波賀エリア）配置しました。

ア）配置しました。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、福祉連絡会や老人クラブ、ボランティア等の集まりへ出向き、制度改革の説明や学習会など重点的に行いながら、**住民も専門職もみんなで支え合う地域づくり**を推進してきました。

その中で、配食サービスは見守りや安否確認に加え、生活支援の役割を担う取り組みとして、29年度には全支部において週2回の実施に向けた準備を進めています。

そして、ふれあい喫茶やふれあいサロン、いきいき百歳体操など



「おまかせしました」…ふれあい喫茶はみんなが主役！(10/30 百千家満ふれあい喫茶)

の機会に、地域の誰もが何らかの役割をもって参加できる「**集いの場や居場所づくり**」を提案し、活動を広げていきました。

また、福祉委員活動の強化（引きの作成）や災害救援体制の整備（災害V養成講座受講者のネットワーク化）など、「**ほっとかない**」を合言葉に出来る**ところから実践**していきました。

協議体づくり、 情報共有、進める会：

地域包括ケアシステムの構築や支え合いの地域づくりを進めていく中で、これから大切になるのが**従来の福祉の枠を超えたネットワーク**です。

29年度は、生活支援コーディネーターが、さまざまな分野の人たちがつながるよう働きかけ、**町や校区、自治会域での協議体（連携の場）づくり**を進めます。

また、災害時や緊急対応が発生した場合、行政と情報を取り扱うためのルール化や管理方法、情報共有体制の構築に向けて、検討や協議を進めます。

そして、4つの支部が住民にとって身近な地域福祉の拠点となるよう、**支部地域福祉推進委員会**の活性化を図り、支部の特徴を活かした計画をつくりまします。

これらの取り組みは、計画を着実に推進するために設置している「**第3次地域福祉推進計画を進める会**」で確認し、新たな課題には適宜対応していきます。

（地域支援課長 波多野好則）



感謝の気持ちを込めて、福祉連絡会が中心となり、ひとり暮らし高齢者のみなさんをご招待(10/26 城下地区一人暮らしの集い)

読者の
感想より

いつも楽しみにしています。知った人の名前があると元気でやってやな、一度逢いたいな～と思います
(千種町 女性)

や

まさき

役立つもの・必要なことを発見

仕事に活かす高齢者疑似体験

「高齢者や体の不自由な方に役立つ住まいづくりの仕事をしているのですが、本当に役立つているのかなあ。その方たちの目線に立った体験ができれば、もっと役立つ必要なものが作れるんじゃないかなと思うんです」と、社協に1件の相談が入りました。

電話の主は、工務店勤務の井口明則さん（32歳・御名自治会）。

話を伺うと、介護職に従事している兄や親戚も、自分たちの仕事に活かすため、同じような体験ができないかと話をされていたそうです。

2月22日（水）、実際にリフォームされた井口さんの祖父宅に社協職員が伺い、装具を使った高齢者の疑似体験を行いました。



「前のめりになって、杖がないと歩けないな」「少しの段差も怖いな」実際体験することで発見がたくさんあります。（井口さんの祖父宅）

井口さんは、「疑似体験し、相手の立場になれた事で手すりや照明など、より一層の工夫や対応を考えていきたい」と感想を話されました。社協では、住民が福祉への理解を深めてもらえるための取り組みを進めています。今後は、福祉出前講座のプログラムを作成し、より多くの住民が福祉を学ぶ機会を作っていきます。

（山崎支部 山本めぐみ）

い

ちのみや

おじゅっさんの寺子屋塾

福田 観音寺

観音寺は、染河内地区の福田自治会にあるお寺です。住職の金持智博さんは毎週水・木・金曜日の午後4時から6時まで、地域の子どもたちに無料で寺子屋塾を開いています。きっかけはお寺を継いだ20年前、住職が子どもだった頃、地域の人たちに見守られながら大きくなったことへの恩返しをしたいとの思いから始められました。

「おじゅっさん」の寺子屋塾は、子どもたちが放課後に集まれる育ちの場として地域に根付いています。これからも子どもたちの成長を見守り続けてください。

（二宮支部 岡崎章訓）



「おじゅっさんここ教えて〜!」「終わったから外出てええ?」勉強に遊びにみんなと楽しくできます（観音寺）

や・い・は・ち トピックス

買い物がてら寄れる居場所

ゆめふうせん

2月13日(月)、JAハリマふれあい館(上野)を訪問すると、ボランティアグループ「ゆめふうせん」が、いきいき百歳体操を行っていました。

ゆめふうせんの活動は、買い物や通院されたお年寄りが気軽に立ち寄れる場所を作ろうと、平成25年にふれあい喫茶を立ち上げたのが始まりです。

翌年には市内でも取り組みが始まった、いきいき百歳体操をいち早く取り入れ、現在では、毎週月曜日に約20人のお年寄りが、体操やおしゃべりで楽しい時間を過ごされています。

参加者の牛谷静子さん(皆木)は、「喫茶の頃からもう4年通っています。買い物かてらに寄れるし、余所(自治会外)からでも来させてもらえるのがうれしい」と話されます。

このように、ゆめふうせんの百歳体操には、町内各



体操も楽しいけど、みんなに出会えることがもっと楽しい
～JAハリマふれあい館(Aコープ波賀店横)～

地から参加があり、誰でも気軽に立ち寄れる交流の場になっています。

波賀の中心部にある利点を活かし、介護予防や交流のできる「ゆめふうせん」。社協では、このような居場所が各地に広がるよう取り組んでいきます。

(波賀支部 田中祥仁)

大勢の顔が見れて嬉しい…

河呂ふれあい喫茶

2月26日(日)、河呂公民館でふれあい喫茶が行われ28人が参加しました。

河呂ふれあい喫茶は、民生委員をはじめ、喫茶ボランティアの協力で行われています。

自宅から出づらいう方や話す機会が少ない方が少しでも多く参加できるように、運営方法をスタッフで試行錯誤しながら計画されています。

今回は、朗読ボランティアグループ「ふきのとう千種」のみなさんをお迎えして、お楽しみ会が行われました。

お茶を飲んだ後、絵本の読み聞かせが始まり、最初に「仙人のおはなし」続いて大型絵本「モチモチの木」が登場しました。

「久しぶりの絵本やなあ。童心に返ったわ」との声が参加者から聞かれ、



「皆さんが場を盛り上げてくれちゃってほっとしたわ」と、ふきのとう千種の一坪光恵さん(河呂公民館)

手遊びやゲームが始まると、公民館全体に笑い声が響き渡りました。

「ここに来ると大勢の顔が見れて嬉しい。みなさんお元気で良かった」と、民生委員児童委員の平瀬成紀さんが笑顔で話されました。

地域の見守り活動にもつながっている河呂ふれあい喫茶。社協では、孤立しがちな人の地域での交流や集いの場として、ふれあい喫茶の取り組みに協力していきます。

(千種支部 横山洋子)

はが

ちくさ

災害に生きるネットワーク! ボランティアが集まり意見交換



災害救援は普段からのつながりが大切

2月15日(水)、宍粟防災センターを会場に「災害ボランティア交流会」を初めて開催しました。

本会では、平成26年度から災害ボランティア養成講座を実施しており、これまで33人に災害ボランティアとして登録いただいています。

交流会では災害救援活動への思いをボランティアと職員で共有し、活動時のリスクマネジメントや本会が行っている取り組みについて、たくさんのご意見をいただきました。

本会では、今後も情報共有の場を定期的に設け、ボランティアのみなさんとの連携を深めるとともに、災害時に生きるネットワークづくりを進めていきます。(波賀支部 田中祥仁)

宍粟市ボランティア連絡会 役員研修 地域とのネットワークづくり について学びました!



「自分が持っている力を引き出すことが大切です」

2月16日(木)、宍粟市ボランティア連絡会の役員研修で、姫路市にあるNPO法人「はなのいえ」が運営する、『地域とつくるレストランはなの家(就労継続支援B型)』を訪ねました。

レストランはなの家では、お年寄りや障がいのある方、地域の住民がお互いに支え合いながら、「働く場」「役割」「楽しみ」をつくっています。

理事長の内海正子さんから活動内容や地域とのつながりの大切さについてお話しいただき、役員のみなさんも刺激を受けられ、今後の活動に活かせるヒントがいただけました。

お昼にはレストランでランチをしながら交流を深め、和やかな雰囲気での研修を終えました。

(山崎支部 秦 亜里彩)

このコーナーでは、私たち生活支援コーディネーター(第2層)が進めている取り組みや役割について紹介します。

困りごとを生活支援につなぐ! ～波賀町北部の雪かき支援～



聞き取りを行い除雪の場所や必要な人員、機材などの調査を実施

生活支援コーディネーター日誌

2月17日(金)、1月中旬から降り積もった豪雪により波賀町北部では、ひとり暮らし高齢者や高齢夫婦世帯などで除雪が追い付かず困っていると、民生委員さんから相談が入りました。

社協職員で現地へ向かい、地元の自治会長さんや民生委員さんと気になる世帯を訪問し、状況確認など現地調査を行いました。

現地では「屋根から落ちた雪が背丈より高く積もって玄関から出入りできない」「足が不自由で家から出られず病院にも行けない」「雪の重さで屋根が落ちそうで不安」など、豪雪による切実な困りごとの声が多くあり、また急な支援を要する内容もありました。

そこで、社協の雪かきボランティア登録者に声をかけ、翌日の18日(土)に7軒のお宅へ雪かき支援を行いました。(※当日の写真は特集2Pに掲載)

今回のような、日常生活の困りごと(ニーズ)の調査やその支援のために人や活動をつなぐ調整(コーディネート)も私たちの重要な役割です。生活の困りごとを支え合う取り組み=生活支援を、みなさんといっしょに考えて取り組んでいきます。(森井裕矢)

みなさんの地域の「集いの場」や「居場所」、支え合いの「生活支援」に関するさまざまな情報は「地域の宝もの」を、社協各支部へお寄せください。